

主イエス・キリストの御名による祈りとは（後半）

□学びの目的

「天にいます私たちの父よ」という呼びかけで始まる「主の祈り」（マタイ 6 章）は、主イエス・キリストが教えてくださった祈りのパターンであり、祈りの対象は、父なる神であることは、よく知られています。

しかし、「イエス様」という呼びかけで祈る人、三位一体の神のそれぞれの位格をお呼びして「父なる神様、イエス様、聖霊様」と祈る人、さらには、とくに聖霊の満たしを求めるときなどに「聖霊様」と祈る人など、さまざまです。

そこで、祈りについて、次の 3 つのテーマに分けて聖書から学びます。

第 1・・・「誰に対して祈ればよいのでしょうか」

第 2・・・「主イエス・キリストの御名による祈りとは」

第 3・・・「聖霊の助けによる祈りとは」

□第 1 のテーマでの内容（7 月 10 日）

聖書が祈りについて記す箇所、誰に対して祈っているかが示されている箇所を見ました。その結果、「父なる神に祈る」というのが、聖書の教えであると、改めてよくわかりました。イエス様は明確に父に祈るように教え、その教えを受けた使徒たちも、明確に父なる神に祈っています。

□第 2 のテーマでの内容（7 月 24 日）

主イエス・キリストは、「わたしの名において」父に求めるようにと言われました。そのため、私たちは、「天の父なる神様」という呼びかけで祈りを始め、「主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」という結語で祈りを締めくくります。

しかし、「主イエス・キリストの御名によって」ということばは、単にそのように唱えればよいというものではないことは、使徒 19：13～17 の「魔よけ祈禱師事件」に見るとおりです。

では、「主イエス・キリストの御名によって」祈るとは、どういうことでしょうか。それが第 2 のテーマです。ボリュームが大きくなったので、前半と後半の 2 回に分けました。次は、前半の部分です。復習をしながら、前半の内容を思い起こしましょう。

1. イエスが公生涯の中で、祈りについて教えた箇所

1) ヨハネ 14：13～14

① あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、わたしはしよう。

● マルコ 16：20 主は彼らとともに働き

② 父が子によって栄光をお受けになるためである。

2) ヨハネ 16：23～24

① あなたがたが父に求めることは何でも、父はわたしの名によって、それをあ

あなたがたにお与えになる。

- ② 求めよ。そうすれば受ける。それは、あなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためである。
- 3) ヨハネ 16 : 27
- ① あなたがたは、わたしを愛し、また、わたしを神から出て来た者と信じた。
- ② その愛と信仰のゆえに、父ご自身があなたがたを愛しておられる。
- ③ だから、あなたがたは、わたしの名において父に求めることができる。
- 4) **まとめ** 「主イエス・キリストの御名によって」祈ると、
- ① イエスが働いてくださる。そして、栄光は父なる神に帰せられる。
- ② 私たちが祈り求めることを、父なる神はイエスの名によって与えてくださり、私たちが喜びで満たしてくださる。
- そのように応答される祈りになるのは、私たちが、単に「主イエス・キリストの名によって」と唱えるのではなく、「イエスを愛し、イエスを神から出て来た者と信じます」という愛と信仰をもって祈るときである。

2. 「美しの門」での癒し

- 1) 使徒 3 : 6 ナザレのイエス・キリストの名によって歩きなさい
- 2) 使徒 3 : 15~16 このイエスの御名が、・・・この人を完全なからだにした。
- ① その御名を信じる信仰のゆえに
- ② イエスによって与えられる信仰
- 3) 使徒 4 : 10 神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの御名
- 4) 使徒 4 : 30 あなたの聖なるしもべイエスの御名
- 5) **まとめ** 「主イエス・キリストの御名によって」とは、神がイエスを死者の中からよみがえらせたことを信じることの表明である。

3. ヘブル人への手紙に記録された教え

- 1) ヘブル 2 : 9~10
- ① イエスは、天使よりも、しばらくの間、低くされた。
- ② イエスは、死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠をお受けになった。その死は、神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものである。
- ③ 神が多くの子たちを栄光に導くのに、【彼らの救いの創始者】を多くの苦しみを通して全うされたことは、【万物の存在の目的であり、また原因である方として】ふさわしいことであつた。
- 【彼らの救いの創始者】とは、イエス
 - 【万物の存在の目的であり、また原因である方】とは、神
- 2) ヘブル 2 : 11~16
- ① 聖とする方（イエス）も、聖とされる者たち（多くの子たち）も、すべて元は一つ（人としての先祖は同じで、アブラハムの子孫）である。よって、主

は彼らを「兄弟たち」と呼ぶ。

- ② 子たちはみな血と肉を持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになった。
- ③ その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、一生涯死の恐怖につながれて奴隷になっていた人々を解放するため。
- ④ 主は、天使（＝墮天使、悪魔と悪霊たち）を助けるのではなく、確かに、アブラハムの子孫を助けてくださる。

3) ヘブル 2 : 17～18

- ① 主は、すべての点で兄弟たちと同じようになられた。
- ② 主は、ご自身が試みを受けて苦しまれたので、試みられている者たちを助けることができる。
- ③ 主は、神のことについて、あわれみ深い、忠実な大祭司となられた。

4) ヘブル 4 : 15～16

- ① 私たちの大祭司は、罪は犯されなかったが、すべての点で、私たちと同じように試みに会われた。
- ② よって、私たちの弱さに同情できない方ではない。
- ③ 私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に【恵みの御座】（＝契約の箱の、贖いの蓋）に近づこう。

5) ヘブル 5 : 7～10

- ① キリストは、人としてこの世におられたとき、自分を死から救うことのできる方に向かって、大きな叫び声と涙をもって祈りと願いをささげ、そしてその敬虔のゆえに聞き入れられた。
- ② キリストは、御子であられるのに、お受けになった多くの苦しみによって従順を学び、完全な者とされ、彼に従うすべての人々に対して、とこしえの救いを与える者となった。
- ③ 神は、キリストを、メルキゼデクの位に等しい大祭司とされた。

6) ヘブル 7 : 16～26

- ① キリストは、肉についての戒めである律法（＝モーセの律法）によらないで、朽ちることのない、いのちの力（＝復活）によって、祭司となった。
- ② キリストは、永遠に存在されるのであって、変わることはない祭司の務めを持っておられる。キリストは、いつも生きていて、とりなしをしておられる。
- ③ したがって、キリストは、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことがおできになる。

- 7) **まとめ** 大祭司なるイエス様を通して神に近づくことが、定められた方法である。大祭司なるイエス様は、私たちの祈りをとりなしてください。

□今回の学び・・・第2のテーマ「主イエス・キリストの御名による祈りとは」後半使徒パウロの教えを、「エペソ人への手紙」と「ガラテヤ人への手紙」から見ます。

□第2のテーマ・・・「主イエス・キリストの御名による祈りとは」（後半）

1. 使徒パウロの教え エペソ人への手紙から

- (1) この手紙では、「私たち」は「パウロはじめユダヤ人信者」、「あなたがた」は「イエス・キリストを信じる異邦人信者」

- ① エペソ 1:12 前からキリスト（＝メシア）に希望を置いてきた私たち
- ② エペソ 3:1 あなたがた異邦人

- (2) エペソ 1:3 神は、キリストにあって、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました。→「天にあるすべての霊的祝福」とは、次の4つ。

- (3) エペソ 1:4～6 神の子とされるように選ばれた

- ① 神は、私たちを世界の基の置かれる前からイエス・キリストにあって選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされた。
- ② 神は、みむねとみこころのままに、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられた。
- ③ 神は、その愛する方にあって私たちに「恵み」を与えてくださった。
- ④ その恵みの栄光が、ほめたたえられるためである。

- (4) エペソ 1:7 罪の赦しを受けている

- ① この方にあって、私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けている。
- ② これは、神の豊かな「恵み」によることである。

- (5) エペソ 1:8～10 一つに集められる

- ① この恵みを、神は私たちの上にあふれさせ、あらゆる知恵と思慮深さをもって、みこころの奥義を私たちに知らせてくださった。
 - 奥義＝旧約聖書では明らかにされず、新約聖書で初めて啓示されたこと
 - 新約聖書は、すべてユダヤ人信者によって書かれた
- ② みこころの奥義とは、イエス・キリストにあって、神があらかじめお立てになったみむねによることである。
- ③ みこころの奥義は、時がついに満ちて、実現する。
- ④ いっさいのものが、キリストにあって、一つに集められる。
- ⑤ 天にあるもの地にあるものが、キリストにあって、一つに集められる。

- (6) エペソ 1:11～14 御国を受け継ぐ

- ① キリストにあって、私たちは御国を受け継ぐ者ともなった。
- ② みこころによりご計画のままをみな行方（＝父なる神）の目的に従って、私たちはあらかじめ御国を受け継ぐように定められていた。
- ③ それは、前からキリストに望みを置いていた私たちが、神の栄光をほめたたえるためである。
 - キリストにあって、あなたがた異邦人もまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことにより、約束の聖霊をもって証印を押された。

- ④ 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証である。これは神の民（＝イスラエル）の贖いのためであり、神の栄光がほめたたえられるためである。
- (7) **まとめ** 「主イエス・キリストの名において」とは、イスラエルの残れる者（レムナント）にとっては、天にある霊的祝福を受けるための道筋である。霊的祝福とは、聖霊を受けることによって受け取ることのできる祝福とも言える。

2. 使徒パウロの教え ガラテヤ人への手紙から

- (1) ガラ 3:26～28 3つの「あなたがたはみな、」
- ① キリスト・イエスに対する信仰によって、神の子どもである。
 - ② バプテスマを受けてキリストにつく者とされ、キリストをその身に着た。
 - ③ 異邦人もユダヤ人も、キリスト・イエスにあって一つである。
- (2) ガラ 3:29 もしあなたがたがキリストのものであれば、それによってアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。
- (3) ガラ 4:6
- ① あなたがたは子であるので、神は、「アバ、父」と呼ぶ、御子の霊を私たちの心に遣わしてくださった。
 - ② それゆえ、あなたがたはもはや奴隷ではなく、子である。子ならば、神による相続人である。
- (4) **まとめ** 「主イエス・キリストの名において」とは、異邦人の信者にとってはキリストにあってユダヤ人信者と一つとなることである。それによって私たち異邦人信者は、「アブラハムの子孫」、「約束による相続人」となり、「神の子」となる。そして、神の子となれば、ユダヤ人信者（＝イスラエルの残れる者、レムナント）と同様に、天にある霊的祝福に与る。従って、私たち異邦人信者も、メシアの王国（御国）を受け継ぐ（ユダヤ人信者は、アブラハムに約束された地域を、異邦人信者は、それ以外の地域）。

□結論

以上の箇所を見てくると、「主イエス・キリストの名によって」祈るということは、次の3つの意味があると言えます。（前半から1と2、今回の後半から3つ目の意味です）

1. 「主イエス・キリストの名によって」祈るとは、イエスへの愛と信仰の表明です。この愛と信仰を父なる神は大変喜ばれ、私たちの祈りに答えてくださいます。
 - ① イエスを愛し、イエスを神から出て来た者と信じること
 - ② 神がイエスを死者の中からよみがえらせたことを信じること
2. 「主イエス・キリストの名によって」祈るとは、大祭司なるイエスを通して神に祈るということです。
 - ① 私たちは試みに弱く、失敗しやすい者ですが、イエスは私たちの弱さをよくわかってくださいます。イエスは私たちのために神の御前でとりなしをしてくださる大祭司です。

- ② イエスが代わって祈るのは、違います。私たちは、イエスがとりなしてくださるから、大胆に神に近づくことができるのです。
3. 「主イエス・キリストの名によって」祈ることは、私たちが祝福を受け取るようにと神が定めた通り道です。神は、イエス・キリストにあって天の霊的祝福を与えてくださいます。霊的祝福とは、聖霊を受けることによって受け取ることでできる祝福とも言えます。次の4つです。
- ① 神の子となるように選ばれた
 - ② 罪の赦しを受けている
 - ③ 一つに集められる
 - ④ 御国を受け継ぐ

□次回は、第3のテーマ・・・「聖霊の助けによる祈りとは」です。8月28日です。

□8月後半の集会予定

- | | | | |
|----------|-------|--------------------|---------------------------|
| 8月20日(土) | 13:30 | 福岡集会 | 「メシア初臨の預言 ゼカリヤ書」 |
| 8月21日(日) | 10:30 | 門司港レトロ集会 | 「神の国の福音」 |
| 8月27日(土) | 13:30 | みやま集会 | |
| | | | 「神の栄光と人の救い③ 人の墮落とサタンとの関係」 |
| 8月28日(日) | 10:30 | オリーブの家集会室の献堂式・記念礼拝 | |
| 8月28日(日) | 13:30 | 熊本聖書フォーラム | 「聖霊の助けによる祈りとは」 |